

## 2024年12月フォーラム・リカレント委員会&勉強会ご報告

日時	2024年12月21日(土)10時～12時30分	参加登録者 25 名	形式 Webex
テーマ	「15年続く学内キャリア支援ビジネスを、元ラーメン屋が立ち上げた秘伝の基礎力とは？」		
内容	1 主催者挨拶 2 参加者自己紹介 3 ゲスト講演	4 Q&A、ブレイクアウトセッション 5 まとめ 6 その他	
講演者	熊澤 匠 (くまざわ たくみ) 氏 キャリアフラッグ株式会社 代表取締役		
司会進行	渡邊明男 (一般社団法人社会人基礎力協議会リカレント委員会委員長)		
主催者挨拶 勉強会概要 説明	<p>長尾代表理事 本勉強会にごいつも参加いただいている皆さま、また今回初めてご参加の皆さまに感謝申し上げます。本勉強会を機に社会人基礎力を共通項にできればと考えている。宜しく願いたい。</p> <p>渡邊リカレント委員長 経済産業省は、「企業が必要とする能力と学校が教える能力に差があるのではないか」という問題を基に2006年に社会人基礎力を提唱した。その後、人生100年時代を背景にキャリアマインド意識と社会人基礎力をOSとしてアップデートしていくこととなる。本日は多くの課題を抱える就職活動に社会人基礎力を取り入れ活動する講演者のお話を伺う。</p>		
熊澤氏 講演	<p>講演</p> <p>(1) プロフィール 高校時代は応援団に所属。大学卒業後HR企業の営業に従事したが、フランチャイズ立ち上げに勧誘され退職。入社後派遣された飲食店の店長になり、数か所の店長経験後に店長統括となる。その後政治家秘書を経験し再びHRビジネスに復帰。自分にしかできない唯一無二の仕事を模索してキャリアフラッグ(株)を創業。以来15年目を迎える。学校支援(キャリア支援)と採用支援(RPO)を事業の中心に据え、若者が社会人化(基礎力を装備)していくことを応援し続ける。</p> <p>(2) 講演</p> <p>① 低学年大学生への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ティーチング&lt;マッチング&lt;カウンセリング&amp;コーチングの仕事を展開</li> <li>➢ 学生をチーム化して課題を出し、ひたすらチームで「考える」ワーキングを実施している</li> </ul> <p>② 周囲からの支援の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 大学のゼミ・アルバイト先の社会人の先輩および家族・親族とのコミュニケーションを活発にする⇒必ず仕事(社会への価値創造)になる</li> <li>➢ 若者を支えるために若者たちの周囲のコミュニティを活用する</li> <li>➢ 若者たちはチームで存在し社会に向かっていくことをもう一度捉え直す</li> </ul> <p>③ 自身の礎となっているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 社会人基礎力を問い直す⇒一体自分は何をもって若者たちと自身を高めようとしているのか自問自答</li> <li>➢ これまでの経験から自身の礎は「チーム」と考える</li> <li>➢ コミュニケーションを使いコミュニティを形成し、それを社会に対してコミットしていく⇒このことが自身のなすべきことと考える</li> <li>➢ 学生たちに、あなたの「旗(フラッグ)」を掲げてほしい⇒足場創りが自身の仕事と心得る</li> <li>➢ フラッグはゴールフラッグではない。チームフラッグを掲げることを若者たちと一緒に目指す</li> </ul>		

	<p>【Q&amp;A】</p> <p>Q1 大学低学年とは 1～2年生のことか。3、4年生ではなく低学年からこのようなことを話していただくことは本当に良いことと思う。</p> <p>A1 1～2年生が対象である。インターンシップは内定を取りに行くためだけのものではないと考える。低学年に対する取組みはチームで活動することを主眼に置いている。また、他にふるさと就職ネットワークを担当しており地域向けキャリア支援をおこなっている。</p> <p>Q2 「あなたの旗を掲げてください」は良いと思うが、「チームフラッグを掲げる」とは具体的にどうということなのか。</p> <p>A2 一人で旗を掲げるわけではない。「あなたは何をしたいのか」ではなくチームで考えることと捉えている。</p> <p>Q3 若い人は失敗を恐れがち。失敗＝成長 &amp; チャレンジであることを織り込んでいただきたい。</p> <p>A3 仰る通りである。応援団は勝ったときはすぐに去る。負けたときは最後まで残る。そこに存在意義がある。社会の中で誰かのために解決、行動することが重要と考える。</p> <p>Q4 応援団(組織)のあり方、厳しさは学生時代に培っていたと思うが、社会(組織)に出てすぐにリタイアしたのはなぜか。</p> <p>A4 応援団の上下関係は信頼関係が中心であった。しかしビジネスの世界の上下関係はそうではなかった。そのような中では自分のことしか考えられなくなっていたことがリタイアの理由。</p>
ブレイクアウトセッション	<p>【感想】若い人たちに失敗を経験させると行動が委縮し制限されてしまう。失敗(=挑戦)が自身を成長させることと理解してもらふ。そのためには目標共用と支援が必要である。</p> <p>【グループ1】ノリの良い学生が評価されがちだがおとなしい学生に対してどう対応するか。そこに存在している(参加している)ことには変わらない。皆同じフラッグをもっていると思う。</p> <p>【グループ2】学生は自分から発言しない。目立ちたくない、失敗したくないと考えリタイアする学生が多い。そのような学生にどうアプローチするか。</p> <p>【グループ3】現代の学生が就職した後の話がメインとなった。入社後10年ピッチでどうなっていたのか。失敗は挑戦である。最後に成功するためにはたくさんの失敗をすること、そしてなぜそれをするのかを考えることが大事である。</p>
まとめ	<p>長尾代表理事</p> <p>熊澤氏の講演の事例は学生たちのロールモデルになる。</p> <p>今年も皆さまにはリカレント勉強会および年次大会でお世話になった。毎回勉強になる会であった。社会人基礎力のプログラムを今後も継続していきたい。また協賛企業の皆さま、色々な形でご協力いただいている方々にも御礼申し上げます。来年も宜しく願いいたします。</p>
その他	<p>次回のご案内 日時 2025年2月22日(土)10:00～12:30</p> <p>講師 追ってお知らせ</p>
ご参加のみなさま	<p>ご参加ありがとうございました。</p> 